



# 読売新聞

協力

短い落語と落語特有の所作を習得しよう



「上方落語の世界を体験しよう!」

水に溶けている様々な物質を分析しよう



「水の化学」

記者体験 緊張するなあ〜



こども新聞記者

# こども 夢・創造 プロジェクト

2016年度 第3期 参加者募集! & こども新聞記者 活動報告

アスリートから トレーニング方法を学ぼう



「スポーツアカデミー」

めざせ★声優! アニメのアフレコに挑戦!



「アニメ声優にチャレンジ!」

粘土で作ったキャラを動かして撮影しよう



「オリジナルキャラクターでクレイアニメを作ろう!」

「こども 夢・創造プロジェクト」は、

さまざまな分野の「プロフェッショナル」を講師にむかえ、小・中学生のあこがれの分野や技術、作品づくりなどを本格的に体験できるプログラムです。

プロフェッショナルの世界を実際に体験する貴重なチャンス!

「おもしろそう!」「やりたい!」その気持ちがあればOK!

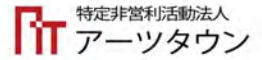
自分の新たな才能に気付くかも!?

どんどん参加してみよう!!

「こども 夢・創造プロジェクト」は大阪市と民間企業・団体の協働により実施しています。

実行委員会 (2016年度)

実行委員長 今西幸蔵 (神戸学院大学 人文学部教授)



協力団体 (2016年度・順不同)

読売新聞

大阪芸術大学附属 大阪美術専門学校

学校法人 大阪造形学園 大阪アニメーションカレッジ専門学校

jam

com

学校法人 佐藤学園 大阪バイオメディカル専門学校

6 [rock] woodworks & life

株式会社 よしもとクリエイティブ・エージェンシー / 株式会社 総合水研究所 / ECCアーティスト美容専門学校 / 大阪マラソン組織委員会

清風情報工科学院 / アナ・トーク学院 / 特定非営利活動法人 書道スーパーキッズの会 / 一級建築事務所 重山建築研究室 / 建築初步教育研究会

辻調理師専門学校 / 地方独立行政法人 大阪市立工業研究所 / 大阪市子ども青少年局



読売DoMo新聞

気軽に読める週1回 毎週木曜日発行

※一部地域では配達の日曜日が変更になる場合や宅配できない場合もあります。

月額500円 (税込) ワンコイン

最寄りのY (読売新聞販売店) または

読売の申し込みは、0120-4343-81 (9:00~21:00) ※土日祝除く

# 2016年度 こども新聞記者 活動報告



カメラを持つ姿も様になってるでしょ!

山手神楽の記者会見にも参加したよ!

上手に撮れたかな? だよ...

- こども記者名簿
- |            |           |            |
|------------|-----------|------------|
| 小学5年       | 小学6年      | 小学1年       |
| かみべ 神戸 詩音  | あまの 遠田 彩乃 | あまの 中野 遥   |
| きむら 木村 優子  | あまの 東谷 美優 | あまの 橋本 菜瑛奈 |
| くわが 國和 弘太郎 |           |            |

今回の「こども新聞記者」には、小学5年から中学1年までの男子2人、女子6人の計8人が参加し、10月30日に開かれた第6回大阪マラソン取材し、記事にまとめました。

当日は、初めてチャリティアンバサダーとして参加した元水泳選手の寺川綾さん、リオデジャネイロ・パラリンピック女子マラソン(視覚障がい)で入賞を果たした招待選手の近藤寛子さん、そして完走した市民ランナーの皆さんからお話をうかがいました。当日は穏やかな秋晴れに恵まれ、記者たちは元気よく活動しました。

大会前日には、大阪マラソンEXPO(エキスポ)2016でボランティアの方たちの取材もしました。ご協力をいただいたみなさん、ありがとうございました。(文中の肩書き、年齢は取材時のものです)



## 1 プール・ボランティア

大阪マラソンに参加するすべてのランナーは、チャリティに参加しています。こども記者たちは10月29日、インテックス大阪で、チャリティプログラムの紹介をする「なないろチャリティーゾーン」を訪ねました。寄付先のひとつ、特定非営利活動法人「プール・ボランティア」(大阪市中央区)のみなさんが、ランナーの方々と交流を深めていました。障がいのある人たちに水泳やプール遊びの楽しさを知ってもらい活動を17年前からしているそうです。理事長の岡崎寛さん(60)と事務局長の織田智子さん(51)にお話を聞きました。



活動に取り組むプール・ボランティアの皆さん(大阪市東成区で)

## プールは楽しいと知ってもらうことが第一歩です

織田さんたちが大阪マラソンでカップのかぶりものを選んだのは、マラソンとプールをつなぐということで、陸上と水の両方できつやくできる妖怪(ようかい)にしたということです。ボランティアには、高1からなれるそうで、80歳の人もあります。私も高1になったらボランティアになりたいと思いました。

—— 遠田記者

織田さんはとても気さくな方でした。「『プールに入って泳ぎたい』という、障がい児の夢をかなえています」と答えてくれました。ボランティアのお母さんをお手伝いする小学生もいるそうです。泳げない子を泳げるようにするだけでも難しいのに、障がい児が泳げるように教えるとは、すごいと思いました。

—— 中野記者

ボランティア活動の内容は、いろいろな障がいをもっている子どもから大人まで、プールを楽しんでもらう活動です。織田さんは「プールは楽しい、と知ってもらうことが第一歩です」と言っていました。

いろいろな障がいをもっている子どもから大人まで、プールを楽しんでもらう活動だよ

ました。ボランティアに参加している人は220人ですが、人数が足りないため、参加してくれる人を増やそうとしています。

—— 橋本記者

ボランティアの人たちは、1か月にのべ450人を教えるそうです。知的障がいの人が8割くらいですが、体の不自由な人も2割くらいいます。障がいの者の水泳大会にも出ているそうです。主に、大阪市や豊中市のほか、奈良市のプールなどで活動しています。織田さんと岡崎さんの活動を聞いて、大変がんばっているんだと感心しました。

—— 國和記者



撮影:神戸詩音



岡崎寛さん

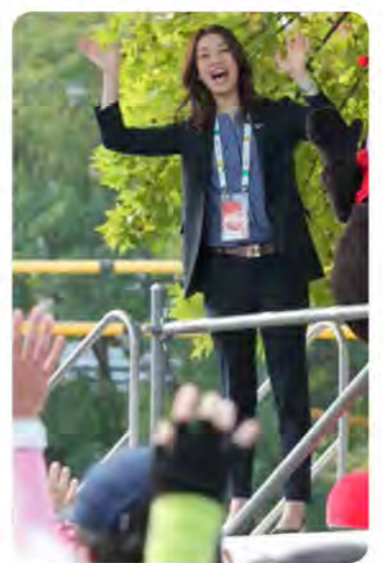
織田智子さん

撮影:東谷美優



## 2 チャリティアンバサダー 寺川綾さん

大阪マラソンは、参加するすべてのランナーや市民とともに、チャリティ文化の普及に力をいれています。今年の大会も、7人の著名人がチャリティアンバサダー(大使)として広く協力を呼びかけました。こども記者は、その一人であるロンドン五輪銅メダリストで元水泳選手の寺川綾さんにインタビューし、参加した感想や大阪マラソンへの思いを聞きました。



寺川綾さんのプロフィール

1984年大阪生まれ。3歳のころから水泳を始め、高校2年の時に世界水泳選手権(2001年、福岡)に出場して注目を集めました。2004年アテネ五輪 200m背泳ぎで8位、2009年日本選手権では50m、100m、200m背泳ぎで優勝して、「背泳ぎ三冠」を達成しました。2012年ロンドン五輪100m背泳ぎで58秒83の日本新、アジア記録で銀メダルを獲得しました。2013年に競技活動から卒業し、現在は水泳の普及と後進の指導にあたっています。

### ~寺川さんと一問一答~

——チャリティアンバサダーになろうと思ったのはなぜですか?

水泳選手だったので、マラソンとは縁がなかったのですが、大阪出身なので少しでも大阪のために力になりたいと思って、お引き受けさせてもらいました。

——応援して大阪の街や、大阪マラソンにどんな感想を持ちましたか?

スタートの地点からランナーはみな笑顔で本当に楽しいイベントなんだな、と思いました。給食ポイントでたこ焼きが出ていて、とても大阪らしいな、と。沿道で「ファイト!」とエールを送っていたら、多くのランナーの方から「おおきに!」と言葉を返されて、自分の方が元気をもらったような気がしました。

——水泳選手のころ、練習はつらかったですか?

確かにつらいことも多かったです。でも、オリンピックに出るといふ大きな目標や夢があったから乗り越えられました。がんばれば記録も伸ばせましたし、大きな大会で目標を達成することもできました。皆さんも大きな夢をもってどんどんチャレンジしてほしいと思います。

——大阪マラソンに出て走ってみようとは思いませんか?

実は私は走った記憶がないんです(笑)。フルマラソンのような長い距離でなかったら、走ろうかなと思いますけど…。来年もチャリティアンバサダーとして参加できれば、またランナーの皆さんを応援したいです。



## 地元で開かれるマラソン大会を応援したかった

夢を持つことの大切さを教えてもらいました。自分からやりたいことを始めないと、いやな練習は乗り越えられないと言っていました。私もやりたいことをいろいろやってみようと思いました。

—— 木村記者

自分が水泳選手でマラソンを見たことがなかったのが、ランナーを応援したかった、と話していました。一つひとつの話がみんな面白かったです。

—— 國和記者

途中、沿道で疲れているランナーに元気を送るように応援したと話していました。来年もチャリティアンバサダーになってほしいです。

—— 中野記者

ランナーや沿道の応援、給食など大阪ならではの魅力がたくさんあった、と話していました。走るのは苦手なので、チャリティアンバサダーとして出たいらしいです。

—— 橋本記者

元気に応援するように心がけたそうです。とてもやりがいがあると教えてくれました。

—— 吉岡記者

寺川さんは3歳のころから水泳を始めました。選手の時、練習でつらいときには、自分の目標を忘れずに、先輩や仲間から刺激をもらって乗り越えてきたと話していました。

—— 東谷記者



練習は、「つらかったですが、試合で目標を達成したときはやって良かったと思いました」と話していました。私は細胞研究者になる夢をもっています。だから、寺川選手のような努力家になりたいと思いました。

—— 神戸記者

寺川さんは大阪出身なので、地元で開かれるマラソン大会で応援したかったそうです。ランナーが疲れているので、

一つひとつの話がみんな面白かったです



遠田記者



### 3 女子招待選手 近藤 寛子さん



近藤寛子さん

撮影:中野通

リオデジャネイロ・パラリンピック女子マラソン(視覚障がい)で5位入賞を果たした近藤寛子選手(50)が大坂マラソンに初出場しました。沿道から大きな声援を受け、3時間39分54秒でゴールしました。ども記者たちは、大会前日とゴール後の2回、近藤さんとコーチの高尾憲司さん(41)、ガイドランナーの日野未奈子さん(21)にインタビューし、マラソンへの思いを聞きました。



撮影:橋本菜瑠奈

### 大阪マラソンは楽しい また走りたいです

近藤さんには子どもがいるので、平日は練習にあまり時間がとれません。でも練習は必要です。だから、平日は短時間で質の高いハードな練習をして、休みの日は長い距離を走ります。ふだんの練習に加え、日野さんや高尾コーチの心づかいがパラリンピック5位という素晴らしい記録につながったのだと思います。近藤さんは今回完走して、思わずガッツポーズをしたそうです。

大阪マラソンでの目標は、視覚障がいを持つ人が走っているところを、多くの人に見てほしいことだそうです。近藤さんは、リオのときも応援に背中を押されていたとっていました。今回の結果に満足しているとのことでした。大阪マラソンに、来年も出たいと話していました。がんばってくださいね。

木村記者

手をつなぐロープは、近藤さんにとって、ガイドランナーの日野さんと心を通わせる「きずな」だそうです。走っていて、調子は良かったけど、いつものペースで走れないときが時々ありました。大阪の仲間たちが来て、応援してくれたそうです。目標は、来年のロンドンの世界選手権に出ることだそうです。

東谷記者



日野未奈子さん

撮影:國和弘太郎

近藤さんは「大阪マラソンは楽しい。また走りたいです」と話していました。わたしは、もし目が見えなくなったら走れません。目をつぶって歩くだけでもこわいです。少し前に、学校で障がい者体験をしようという授業がありました。仲のいい友だちと手をつないでいても、障がい物をよけて歩くのはこわかったです。近藤さんはすごいと思います。

神戸記者



高尾憲司さん

撮影:遠田彩乃

近藤さんはすごいと思います



撮影:吉岡陸

来年も出たいと言っていましたか? がんばってくださいね

手をつなぐロープは「きずな」だそうです



### 4 市民ランナー



第6回大阪マラソンには42.195キロのフルマラソンに3万298人、8.8キロのチャレンジランに1961人の計3万2259人が参加しました。ども記者たちは、フルマラソンのゴールとなるインテックス大阪で、完走したばかりのランナーの皆さんから、ゴールを果たした喜びの声を聞きました。

撮影:吉岡陸



撮影:東谷美優

### もっと目立つ、派手な仮装で来年も出たい!

須田佳子さん(48)(東京都調布市)はアフロヘアのカツラをかぶって完走しました。なぜかぶったのですかとたずねると「沿道の人たちに声をかけてほしかったから」と気さくに答えてくれました。友だちと一緒に走っていたようですが、「25kmから32kmあたりがしんどかった」と振り返っていました。なぜ参加したのですかと聞くと、仕事で大阪に来ることが多く、「見ているととても面白そうだったから」と理由を話してくれました。実際に走ってみて、面白かったらしく、「来年も出たい。もっと目立つ、派手な仮装をしたい」と話していました。私は大阪に住んでいますが、ほかの都道府県から須田さんのような陽気な方が来てくれて、とてもうれしかったです。

中野記者



須田佳子さん

### おっちゃん、おばちゃんのツッコミが楽しい

通天閣の模型を頭にのせて走った竹中靖行さん(50)(京都市)は2回目の大阪マラソンでした。これまでいろんなマラソン大会に出場したそうです。毎日午前5時30分に起きて、近くのグラウンドを走り、日曜日には桂川のランニングコースを走っているそうです。大阪マラソンは応援する人が多くて、楽しく走れると言っていました。「おっちゃん、おばちゃんが『なんであんな、歩いてんねん』などツッコミを入れてくれるから楽しい」と話していました。今回のマラソンの出来を点数でいうと、120点だそうです。「速く走れた」と、とても満足そうでした。けれど、「次のマラソンに出る気はない。このマラソンを最後にしたい」と少し残念そうに話していました。

橋本記者

撮影:木村優子



竹中靖行さん

### 忍者の姿ではしるのは3回目

福森剛さん(43)(大阪府茨木市)と剛さん(41)(京都府亀岡市)の兄弟は忍者のかっこうで走りました。剛さんが「ハンゾー」、剛さんが「サスケ」とゼッケンに書いていました。なぜこのかっこうなのか、とたずねると、お二人の故郷が「伊賀忍者のふるさとだから」と説明してくれました。忍者の姿で走るのは3回目だそうです。マラソンの楽しいところは、「練習の結果がすぐにタイムに表れる。がんばったらがんばった分だけ自分に返ってくる」と話してくれました。大阪マラソンに参加するのは「すごく楽しくお祭りみたいだから」と言っていました。きつとお祭りが大好きな兄弟なんだなと思いました。市民ランナーもゆかいな人がいるなど感じました。

遠田記者



福森剛さん

撮影:神戸詩音

### たくさんの方の応援で楽しめました

鶴澤賢明さん(44)(神戸市)は子どもが好きなマリオの姿で走りました。「楽しく完走する」ことを目標にしていたのですが、「本当にたくさんの方の応援がもらえて、楽しめました」と話していました。これまで大阪マラソンの抽選にはずれていた、初めての参加でしたが、それだけに熱が入っていました。大会前は、週4回、河川敷を20kmも走っていたそうです。しかし、本番のマラソンは調子が悪く、「途中で何度も完走をあきらめようとした」そうです。それでも、がんばって完走した鶴澤さんはすごいと思いました。最後に鶴澤さんは「また来年も出場したい」と笑顔で答えてくれました。

吉岡記者

撮影:國和弘太郎



鶴澤賢明さん

ほかの都道府県から陽気な方が来てくれて、とてもうれしかったです

撮影:神戸詩音

市民ランナーもゆかいな人がいるなど感じました

調子が悪くても完走した鶴澤さんはすごいと思いました!

